

2025年5月27日

学校法人三幸学園
大阪ビューティーアート専門学校
校長 真野 正道 殿

学校関係者評価委員会
委員長 木田 康隆

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 木田 康隆 (ステーションカンパニー株式会社 取締役副社長)
- ② 村田 真利亜 (第6期卒業生)
- ③ 荒川 悠子 (株式会社ガモウ関西 人材サポート部チーフアドバイザー)
- ④ 田山 知佳 (飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス 主任)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年5月27日 (会場 大阪ビューティーアート専門学校 508教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園 大阪ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 島田 美穂子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 木田 康隆

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・学校が「楽しい」と感じる事、様々な環境の生徒に合わせた集団の中でも学べる環境づくりを意識した取り組みを行った。具体的には、ハロウィンなどの愛校心をはぐくむイベントや、美容業界のプロによる講話やデモンストレーションを年間通して実施することにより、向上心や意欲が途切れないよう取り組みを行った。
- ・メンタル面でのサポートにおいては、集団の中で一人になれる環境を設置（一人スペース）し、教室にいる事がしんどいと感じた時に逃げられるスペースを作った。
- ・トータルビューティー科の1年生は入学前にアンケートを取り、週4日クラスを設置し、クラス運営をはかった。
- ・授業レベルの向上として、リアルとデジタルを組み合わせたオンデマンド配信、デジタル教科書の採用など、ICTを活用した授業展開も継続すると共に、国家試験の課題対策としてVRゴーグルを活用した実習授業、AI搭載のデジタル問題集を導入するなど、今まで以上に予習や復習がしやすい教育スタイルを実現した。教員も使い方に慣れてきたことと合わせて、必要性やよりよい活用方法を見出すことが出来てきた。今後、ネイルなども導入し幅広くICT教育を行っていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

<木田委員(トータルビューティー科)>

楽しい・ワクワクする企画は前向きな効果もあるが、反動も生まれやすい。昨年度は会議形式だった入社式を、今年は結婚式場での入社式&懇親会に変更した。実施前は既存スタッフから反発もあったが、結果的には「良かった」との声が多数。1年目スタッフの「運動会がしたい」という声を受けて、代わりに30名でラウンドワンでのスポーツ参加を実施。若い世代は「人との触れ合い」を重視しており、特に美容業界ではその傾向が強い。新しい取り組みには賛否あるが、「まずはやってみる」姿勢も大切だと実感した。

<荒川委員(美容科・ヘアメイク科)>

シティ&ギルズでモデルハントに苦戦したという話があったが、一部の学生は集客力や発信力に長けており、個人ブランディングに成功している。現場での授業経験やInstagramなどのSNS活用は、就職後も強みとなり、企業・

本人双方にとってプラスとなる。一方で、最近の学生は学びのペースがゆっくりで、就職後の早期離職(1か月以内)も見られる。「思っていたのと違った」とならないように、実習や現場教育を通じて事前の理解と心構えを育む指導が必要だと感じる。

<村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)>

最近の学生は、人との関わりを出来るだけ避けて卒業しようとする傾向が見られる。その結果、社会に出たときにコミュニケーション力も不足しているケースがあり、現場側もどう指導すべきか悩むことがある。以前はハロウィンイベントなども生徒主体で企画・運営し、人と関わる力が自然と育っていた。時代が変わっても、人との繋がりを大切にする姿勢は変わらず重要であり、今後の教育でも重視すべき要素だと感じる。

<田山委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)>

高校分野では通信制を選択する生徒が全体的に増加傾向にある。中にはビューティーアートを希望し、飛鳥未来に入学してくる生徒もいる。通信制の生徒への配慮はされているものの、実際には「もっと通いたい」と感じている生徒も増えている。特に中学生の段階から飛鳥未来に来ている生徒は、目的意識が高く、強い意志を持って入学している傾向にある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

専門学校での教育を進めていく中で、生徒本人の美容を学びたいという気持ちがとても大切である。しかし、入学当初より夢があり目的や目標を持って入学してくる生徒も多いが、反面少数ではあるがなんとなく美容が好きという観点で入学してくる生徒もいる。入学後のオリエンテーションから学校での目標に留まらず、将来の自分の姿を想像し美容業界で働くことが楽しみになるように授業、行事の両面から生徒たちをサポートする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・一流のプロによる講話や技術のデモンストレーションなど、2年間の教育の流れを点ではなく繋がりを持たせ向上心や意欲が途切れないようサポートしていく。
- ・上位層の生徒たちの活躍の場として、様々な委員会に加えて、コンテストにも力をいれていく。また、先輩が後輩に施術を行うなど、身近な存在から目標を立てる、モチベーションを上げるなどの機会も設けていきたい。
- ・保護者理解においては、入学前に対面にて新入生保護者説明会を実施し学校教育の理解を深めていきたい。

③ 特記事項

三幸学園の教育理念 『技能と心の調和』の共有

④ 学校関係者評価委員会コメント

<田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)>

スタッフには最終的に独立を目指してもらうことを前提に指導している。現場では自分を売り出す力が求められ、人とのコミュニケーション能力が最も重要となる。研修では考え方や栄養学などの外部セミナーを活用している。また3年後・5年後の将来像を常にイメージさせる指導を行い、自己成長を促している。

<木田委員(トータルビューティー科)>

新入社員の目標設定と評価制度では、楽しさと切磋琢磨の両面を取り入れた目標設定を実施している。新人賞などの表彰制度で、デビューに向けたモチベーションを高めている。具体的には、週に1回の週報、1か月後の月報を提出させ、スキルアップは等級別に分けて全社員が共通で見える化している。自身の課題や今後の方向性が明確になるようにし、給与と連動した評価制度を活用している。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

教員数も約150名人と多く、情報伝達に時間がかかる。年に数回実施される全教員での会議だけではなくMicrosoft Teams やメールなどを駆使し速やかな情報発信を実施しているが、周知するのに時間がかかってしまう側面もある。SDGs も含め紙書類を少なくしていく動きも取る為、教員もPC やiPad 等の使用をメインとして進めていけるようにしたい。その先駆けとして以前より紙であった出席簿をデジタルし、教員も使用方法には慣れつつある。しかし一部記入漏れなどのミスはあるので授業担当だけではなく担任メンバーや教務事務もタイムリーに把握を行えるようにしていきたい。

② 今後の改善方策

WEB 出席簿をさらに定着させていく。人的ミスと教務事務の作業効率化を目的として実施し始めたが、導入によりタイムリーに出席状況がデータベースで出力可能になった為、学校運営にさらに繋げていけるようにしていきたい。連絡手段が便利になる一方で、一方的な情報伝達にならないよう、方針や方向性など思いや考えを伝える場として、教科会の実施方法を工夫しより密なコミュニケーションをとれるよう実施して行く必要がある。

また、2025 年から学校事務の中でも経理の機能については各校対応ではなく、地域で集約し学費・奨学金・経費などの管理が出来る体制が出来た為、よりミスなく経理業務を円滑に進められる予定。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜荒川委員(美容科・ヘアメイク科)＞

最近スマホでメモを取る学生が増えているが、それを受け入れにくい世代もいることを理解する必要がある。今年の新卒は自主的にメモを取る姿勢があり、例年より高評価で印象も良かった。AI の活用が増える中で、何を AI に任せ、何を自分で行うかの判断力が今後ますます重要になる。

＜田山委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

スマホなどの機器操作が得意な学生は増えているが、現場に必要なエクセル操作が苦手なケースが多い。タッチパネルでの簡単な入力が出来ても、パソコンでのタイピングや基本的な操作が出来ない人もいる。現場で即戦力となるためには、パソコンスキルの基礎教育やフォローが重要である。

島田副校長

エステサロンでは以前はカルテ情報など紙に書くことが多かったが、今はどのようになっているのか。

村田委員(美容科・ヘアメイク科)

当社では紙ベースだが、中小企業では、カルテは機械で予約表は紙ベースのところも多い。

木田委員(トータルビューティー科)

予約やカルテも紙ベースで行っている。TBCさんなどはシステムを入れて管理しているようだ。

島田副校長

個人情報扱う仕事が多いため、コンプライアンス的にも概念を伝えることも大事だと思っている。現場に出るとより厳しくなると思うが、どのような研修を行っているのか。

村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)

お客様とのトラブルがないように、入社時に必ず研修を実施している。

荒川委員(美容科・ヘアメイク科)

多くの美容室では、カルテをホットペッパーなどの予約システムと連携させて管理している。最近では美容師とお客様が Instagram などの SNS で個人的に繋がるケースも増加中である。こうした中で、コンプライアンスや個人情報の適切な管理は、学校としても非常に重要な課題である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

サロンワーク授業において、産学連携の一環として、外部で実際に希望者にネイルなどを実施する機会を設けた。生徒にとって、直接「ありがとう」といっていただける事は大変刺激になりモチベーション UP に繋がった。今後、学びにおいて外部講師からの指導を受けられる機会も増やしていきたいが、現状少ないため協力していただける企業様を増やしたい。また、現役の美容師の方や美容業界で企画運営をされている方などをお呼びし、学生のモチベーションが上がる現場の「リアル」な話を聞ける機会を設け、あわせて教員も講話により今の現場の声を知り知識をアップデートしていきたい。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科は特にサロン様との交流の機会を増やし、自分達が努力して取得した資格を活かして、業界で働くイメージや自信をつけさせたい。

2025年4月は、1年生は通常授業が始まる前に、特別授業をもうけて卒業生のデモンストレーションを見る時間を設けた。学びを楽しみに出来、退学防止に繋がる事を期待している。

② 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

＜木田委員(トータルビューティー科)＞

接客では2時間の会話が必要で、トレーニングで習得可能ではあるが、学生時代からコミュニケーション能力を養うことが重要である。知識面では、皮膚に関するテストで白紙回答があるなど、専門学校での学びが不十分なケースが見られる。技術面では体の使い方や圧のかけ方が毎回の課題で、実践的な指導が求められる。学校教育では、学んだ先にどのような現場や世界が待っているのかを具体的に伝えることが必要である。挨拶や返事などの基本マナーを身に着けることも大切だが、担任教員の明るさが面接での生徒の雰囲気にも影響するため、担任の役割は非常に重要である。

＜田山委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

今年度から、学校に足が向きにくい生徒をひとつのクラスにまとめる取り組みを開始した。そうした生徒は自己肯定感が低く、肯定してくれる先生に懐く傾向がある。今後は、担任の指導に特に注力し、生徒ひとりひとりに寄り添った支援を強化していきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

全学科、退学者が増加している。主な退学理由として、目標喪失による退学となる。就職活動に向きあうにあたって進路に悩み異なる業界へと考える生徒が増えている。

また、通信制の出身の学生は登校する事自体レベルの高さを感じており、通信制の退学理由は心身耗弱が高い傾向がみられる。2023・2024年共に、全体の退学率は約13%となっている。

② 今後の改善方策

学校に遅刻や欠席をし、周囲とうまくコミュニケーションがとれるか不安になる生徒も増え、早期発見が出来ないと退学に繋がることもある。人前で注意を受けることだけでなく、褒められることも苦手な生徒が増えている。教員自身の生徒への対応方法のレベルアップを図りながらも、前向きに取り組んでいる生徒たちへコンテストの機会も増やしつつ、個へのアプローチにより退学を減らしていく。個人にあった学び方を選択できる機会も設けていきたい。また、2025年からはトータルビューティー科では週4日登校の設置、ハイフレックス授業といった座学授業を受ける事が難しい生徒の集団の中で一人になることが出来る、一人集中スペースといったものを学内に設置する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<荒川委員(美容科・ヘアメイク科)>

定着率調査を5年程実施しており、サロン毎のスタッフの継続状況を把握している。定着率が高いサロンの特徴として、有給が取りやすい・チームでカバーする体制が取れている・給与以外の満足(休み・人間関係・雰囲気)が定着に繋がっている。

<村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)>

エステ業界への転職希望者も増えている。お客様の中でもエステに転職したいという人が多い。①サロン勤務希望 ②将来的な独立開業志望③安定して長く勤めたい人の3パターンに分かれる。経験や希望によって、キャリアプランやサポート内容を柔軟に提案することが必要である。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

自分の考えにあったサロンマッチングやキャリアプランを構築しそれにあつた企業様へのエントリーを進められるよう、年間通して企業様と接する機会を多く設けた。このようなマッチングをしっかりと実施し企業様にとっても求める人材が就職できるようにすすめたい。動き出しの遅い生徒も、選び方を理解することでスムーズな就職活動が出来るようになる。最近では、多様化に伴い様々な場面で合理的配慮が必要な生徒が増えているので、対応が出来るようにしていく必要がある。

② 今後の改善方策

トータルビューティー科の特にメイクの求人が活発化してきているとはいえ、希望者人数も増えている中で1人でも多くの生徒が、希望企業での内定をもらえるよう、教員のサポートが今まで以上に大切になっていくと感じる。合理的配慮に関しては、どのような配慮が必要なのかを教員が把握し統一した指導や対応が出来るように、昨年度に引き続き報告用紙をまとめて作成する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

海外研修では韓国研修もしくはヨーロッパ研修を選択することができ、参加者の満足度はとても高かった。海外のプロの方からの学びは非常にいい機会になったと感じた。

また、基本的な接客スキルを身に付ける機会を日ごろから増やしたいと考える。授業を通して習慣化できるように促したい。

② 今後の改善方策

学びのきっかけは多方面で与えてはいるが、研修の希望者が少ない様に感じているため、学生だからできることや、将来に繋がることをイメージさせる導入が必要と考える

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

海外に行くことで、日本の素晴らしさを改めて実感できる。異文化を経験することで、会話のネタが増え、コミュニケーション力向上にも繋がる。

＜木田委員(トータルビューティー科)＞

向上心が高い生徒ほど、積極的に参加したがる傾向がある。少人数でも実施できれば、学校のマイナスにはならず、広報としても価値がある。韓国美容などの現地視察は、実践的で非常に良い取り組みと考えられる。

＜田山委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

高校生の中には海外で活躍したいという希望を持つ生徒もいる。飛鳥未来高校では、オーストラリア・シドニーでの2週間語学研修(74万円)を定員30名で募集したところ、300名の応募があった。想定を超える高い需要があることを実感した。

＜村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

オーストラリアの方から、現地サロンにて日本人エステティシャンとして働いてほしいと依頼された経験がある。日本人は丁寧な対応が評価されており、安心して任せられると感じている。

＜荒川委員(美容科・ヘアメイク科)＞インバウンド客が増えているため、ツアー会社との連携でお客様の獲得が期待できる。美容室でスパサービスを導入すると、顧客満足度が上がり、海外からの顧客チャンスになる。会社の福利厚生で英語学習が可能などところも多く、学生時代から多様な経験やスキルを積むことが重要である。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

今後も適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

平等性を保ちながらも、受験者が受験方法を選べることを明確に伝え、学校都合ではなく受験者にとって適正な受験方法を提案できるように職員が統一認識を持つようにしている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

今後、通信制の生徒など集団での空間が苦手な方も増えてくる可能性があるため、改めて個人面接、グループ面接など実施の仕方を検討する必要があるが、社会に出た際のギャップが大きくなるよう受験方法も含めて社会人育成の場として社会に順応できるステップを作る必要があると感じる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

引き続き法令等遵守をしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

外部でのボランティアを多く実施し、生徒たちの技術披露の場を設けた。また、産学連携を強化したことにより地域の盛り上げにも貢献した。しかし、美容関係で多くのボランティアやイベントにお声がけいただくが、実際にお互いにとって win-win になるボランティアの精査を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

生徒が実施するサロンワーク授業などで、地域の方や広く一般の方にぜひお客様として学校にお越しいただきたいと考えている。まだまだプロの技術というわけにはいかないが、かなり技術力も上がった生徒たちの接客や技術を是非受けていただきたい。その上で、学校としても企業連携を深めより生徒にとって学びとなり、地域にも貢献できるものを取り入れていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

毎年、数名留学生が入学する。日本での就職を希望しているが、就職支援が難航している。言葉の問題というよりは就労ビザの問題が大きい。併せて日本語の難しさから学ぶことにモチベーションが下がる生徒もいる。

② 今後の改善方策

引き続き、受入れ可能な企業様にご依頼する。

また、同じ留学生の上級生との交流を実施し、語学問題含め日常の悩みなどを相談できる場も作って行きたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

＜田山委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

今年も姉妹校への進学希望者が増加しており、特にビューティー校への関心が高まっている。一方で美容業界には理想と現実のギャップがあり、それを理解しないまま進むと早期離職の原因にもなる。業界の厳しさやリアルな働き方も伝える責任がある。夢を応援しながらも現実的な視点を持たせることが、生徒の将来を守ることに繋がる。

＜木田委員(トータルビューティー科)＞

専門学校に入学後間もない時期に企業説明会の参加希望があり、企業に関心を持つ学生も現れ始めており、早期意識の高まりは非常に良い傾向である。実際にはご縁がなかったとしても、そうした姿勢を持つ生徒が増えている。エステ業界は需要と供給のバランスから、学生側が企業を選べる時代になっている。

SNS や AI カウンセリングなど最先端の企業に魅力を感じる生徒もおり、学んだ内容と現場の選択が一致しないことある。複数内定(4社)を得た学生もおり、選ぶ基準は給与や企業の姿勢、自己分析の深さによって変わる。中には面接の場で「第三希望です」と正直に話す生徒もおり、企業が戸惑うケースもある。自己分析をしっかりと行っている生徒は、給与・社風などを冷静に比較して選択できている。

＜荒川委員(美容科・ヘアメイク科)＞

最近では挨拶が出来ない生徒も見られ、基本的なことの大切さを改めて感じる。当たり前のことを当たり前でできることこそ素晴らしいことだと感じる。技術が未熟でも、セミナーなどで礼儀正しい生徒は「〇〇の学校の子はすごい」とサロンから評価される。そうした姿勢に「この子を育ててあげたい」という気持ちが生まれる。これはどれだけ時代が変わっても教育の根本として大切にしたい部分である。

＜村田委員(美容科・ヘアメイク科・トータルビューティー科)＞

数字の書き方・領収書の書き方・所作・電話対応・メモの取り方など、一見「当たり前」と思われがちな基本動作を丁寧に教えることが大切だと感じた。大人が「出来て当然」と思っていることほど、学生にとっては新鮮な学びになる。授業や指導に“プチ豆知識”を加えることで、興味や理解が深まる効果も期待できる。実践的・現場で役立つ知識とマナーの習得が即戦力の第一歩となる。

以上